

夏秋トマトの低段密植栽培

中山間地域の雨よけ栽培では、4月に定植し6月から11月までつる下げにより約12段果房まで収穫されています（収量約400kg/a）。しかし、梅雨時期の低日照とその後の高温による草勢低下や着果不良により、8月以降の収量が低く、単価の高いこの時期の増収技術が望まれています。そこで、‘招福’（台木助っ人）を用いて栽植密度を慣行の1.5~2.0倍とした低段（3~5段）直立仕立ての栽培について検討しました。

3段および5段どりとも収穫期間が短くなりますが、開花時期の天候が比較的安定している4月下旬、5月上旬定植では慣行と同等かそれ以上の収量が得られました（図1、2）。また5月下旬以降の定植では、生育初期からの低日照とその後の高温の影響により、着果不良や変形果が発生し、低収量となりましたが（図1、2）、梅雨が過ぎて、天候が安定してくる6月下旬と7月中旬定植の5段どり栽培では8月以降250~300kg/aの収量が得られました（図2）。

これらのことから、3.7株/m²の密植栽培では苗代が多くかかりますが、定植時期を早めた4月上中旬定植の3段どり栽培と7月中下旬定植の5段どり栽培を組み合わせることにより、600~700kg/aの収量が得られるものと考えられます。

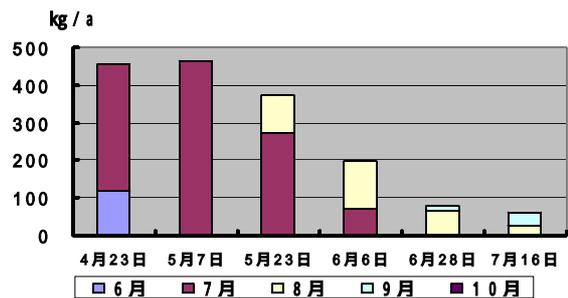


図1 3段どり栽培での定植時期別可販果収量

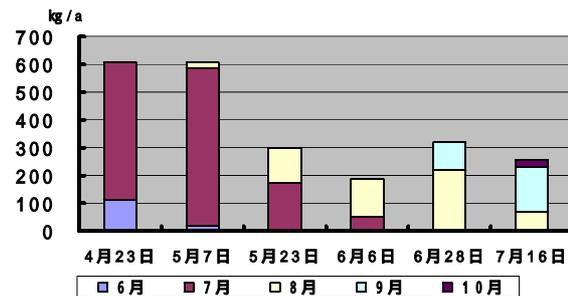


図2 5段どり栽培での定植時期別可販果収量

[山間試験部 島崎 純一]